広島大学　学部・附属学校共同研究機構研究紀要
〈第39号　2011．3〉

教育実習の改善に向けて

―英語科実習生の授業意識に関する一考察（１）―

深澤　清治　　樫葉みつ子　　赤松　　猛　　伊賀　泰恵
石原　義文　　井長　　洋　　五井　千穂　　笹原　豊造
壇　　泉　　原田　良三　　林　　史

１．はじめに

（１）研究の背景

社会の変動に伴い，教員に求められる資質能力が一層高いものとなりつつある。これを受けて，中央教育審議会（2006）の『今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）』では，「教職課程の質的水準の向上」の必要性が述べられており，学校現場での教育実践を通じて，学生自らが教職への適性や進路を考える貴重な機会である教育実習を改善・充実することの必要性が指摘されている。

（２）教育実習生と指導教員の「意識の差」

教職経験を豊富に蓄積した教師と比較して，教育実習生の授業運営行動には，未熟かつ稚拙な点が数多く認められる。両者の違いを比較した研究はこれまでにいくつか行われており，教育実習生の授業運営行動における問題点が数多く指摘されている。これらを藤沢（1985）は，①目標意識の希薄さ，②目的意識の希薄さ，③生徒全員に奉仕する意識の希薄さ，④役割意識の希薄さに集約できるとしており，教育実習生の「意識」の改善が，教育実習指導の改善・充実へつながることが示唆されている。

（３）英語科教育実習生の「Beliefs（信条・信念）」

今年度本校において実習を行った教育実習生に対して，実習前に，自分たちが考える「望ましい英語の授業」について，自由記述によるアンケートを行った。以下がその結果である。（表１）

これらは，教育実習生が学習者としての経験を通して形成した英語学習に対するbeliefs（信条・信念）を強く反映していると考えられる。言語や言語学習に対するbeliefsとは，「言語や言語の指導・学習に関する思い込み」（酒井ほか，2006）のことであるが，それは教師が教室内外で行う指導に大きく影響することが指摘されている（Richards & Lockhart，1994）。教育実習生が持つ英語学習・英語教育に対するbeliefsを明らかにすることは，今後の英語科教育実習の指導を考える上で非常に有益であると考える。

表１　教育実習生の考える「望ましい英語の授業」

- クラスの内のレベルの差を考慮し，それぞれに対応できる授業
- ペアワークなど，生徒がアクティブになるような活動が多い授業
- 考えさせることで深い読みを促進させる授業
- 発展的な内容も扱う授業
- 授業に少しずつ変化があるもの
- 生徒を退屈させない授業
- 音読や会話など，英語を話す機会が多い授業
- 使える表現や単語を教えてもらえる授業
- スピーキング活動などアウトプットの時間がある授業
- 歌や映像を活用した授業
- 深く内容を考えるような授業
- コミュニカティブかつ充実した授業
- 生徒が活動する時間が多い授業
- たくさんの種類の活動がある授業
- 内容が定着できる活動がある授業
- わかりやすい説明がある授業
- 実際に英語を使って楽しめるような活動がある授業
- 深く読ませたり，自分の意見を書かせたりする授業
- 生徒側が考える時間がある授業
- 生徒主体の授業

２．研究の目的

本研究の目的は，英語科教育実習生が持つ英語学習・英語教育に対するbeliefs（信条・信念）を明らか

Seiji Fukazawa, Mitsuko Kashiba, Takeshi Akamatsu, Yasue Iga, Yoshifumi Ishihara, Hiroshi Icho, Chiho Goi, Toyozo Sasahara, Izumi Dan, Ryozo Harada, Fumi Hayashi: For the improvement of English teacher training —A study on student teachers' beliefs about learning and teaching English (I)

にし，指導教員のbeliefsとの比較等を通してその問題点を分析し，今後の英語科教育実習指導の改善・充実に向けての示唆を得ることである。研究初年度の今年は，先行研究をもとに英語学習・英語教育に対するbeliefsを調査するための質問紙を作成し，来年度以降の研究への足がかりとする。

3．「Beliefs」に関する先行研究概観

これまでにも，教育実習生と彼らを指導する指導教員との間のbeliefsの差異を検討した研究がおこなわれている。例えば三橋ほか（2002）は教育実践の力量形成に必要な活動について，小・中学校で実習を行った教育実習生とその指導教員を対象に質問紙による調査を行い，実習生と指導教員がそれぞれ焦点を当てる活動の特徴を明らかにしている。これによると，指導教員は授業や生徒指導等の基盤となる日常の潜在的で暗黙知的な活動に焦点をあてて指導するが，教育実習生は顕在的で明示化された形式知的な活動に焦点をあてることがわかっている。

磯崎ほか（2002）は，中・高等学校で実習を行った教育実習生とその指導教員に対して，質問紙と面接による調査を行い，教育実習に対する両者の意識の差を明らかにしている。これによると，指導教員は教育実習を生涯にわたる教職開発の導入として捉え，指導・助言を通して，教育実習生が自己省察をし，専門的成長をする機会と考えているが，教育実習生は，実践における他者との関わりの中で教師としての自分を自覚する機会と捉えていることがわかっている。

これらは教育活動全般や，教育実習の意義そのものに対する意識を調査したものであるが，教育実習生と指導教員の間には，beliefsに関していくらか差があることがわかる。

英語学習・英語教育に対するbeliefsを調査した研究も，これまでいくつか行われている（Horwitz，1988；Wenden，1986；Davis，2003；古家，2000 cited in 酒井ほか，2006）。例えば酒井ほか（2006）は，中学校の英語教師と大学生の英語学習者に対して質問紙による調査を行い，それぞれの英語学習に対するbeliefsを比較し，その違いを明らかにしている。酒井ほか（2006）によると，学習者に比べ，英語教師は「開始年齢が遅くても外国語学習が可能である」，「学習者は教えた以上のことを学んでいる」，「学習者の間違いを全て訂正する必要はない」といった項目においてより強いbeliefsを示し，「コミュニケーションにおける文法規則や訳の役割」を低く見積もっていることが示されている。酒井ほか（2006）は，教職経験10年未満と10年以上の英語教師の差も比較しており，教職経験が長い教師は「訳（和訳・英訳）の役割を強く感じている」など，教職経験による違いも明らかにしている。教育実習生を対象にしてそのbeliefsを明らかにし，指導教員と比較した研究は，これまでおこなわれていないようだが，同様にいくつかの興味深い相違点が明らかになることが期待できる。

4．英語学習・英語教育に関するbeliefs調査のための質問紙作成

（1）先行研究で用いられた質問紙

Beliefsの質問紙として代表的なものはHorwitz（1988）の「Beliefs about language learning inventory（BALLI)」（表２）であろう。

表２　Beliefs about language learning inventory（BALLI）（Horwitz, 1988）

Students are asked to read each statement and indicate:
(A) Strongly agree, (B) Agree, (C) neither agree nor disagree (D) Disagree, (E) Strongly disagree.

1. It is easier for children than adults to learn a foreign language.
2. Some people are born with a special ability which helps them learn a foreign language.
3. Some languages are easier to learn than others.
4. The language I am trying to learn is: A=Very difficult, B=Difficult, C=Medium difficulty, D=Easy, F=Very easy
5. The language I am trying to learn is structured in the same way as English.
6. I believe that I will ultimately learn to speak this language very well.
7. It is important to speak a foreign language with an excellent accent.
8. It is necessary to know the foreign culture in order to speak a foreign language.
9. You should not say anything in the foreign language until you can say it correctly.
10. It is easier for someone who already speaks a foreign language to learn another one.
11. It is better to learn a foreign language in the foreign country.
12. If I heard someone speaking the language I am trying to learn, I would go up to them so that I could practice speaking the language.
13. It is okay to guess if you do not know a word in the foreign language.
14. If someone spent one hour a day learning a language, how long would it take him/her to become fluent? A=less than a year, B=1-2 years, C=3-

5years, D=5-10years, E=you can't learn a language in 1 hour a day.
15. I have a foreign language aptitude.
16. Learning a foreign language is mostly a matter of learning many new words.
17. It is important to repeat and practice often.
18. I feel self-conscious speaking a foreign language in front of other people.
19. If you are allowed to make mistakes in the beginning, it will be hard to get rid of them later on.
20. Learning a foreign language is mostly a matter of learning many of grammar rules.
21. It is important to practice in the language laboratory.
22. Women are better than men at learning foreign languages.
23. If I speak this language very well, I will have many opportunities to use it.
24. It is easier to speak than understand a foreign language.
25. Learning a foreign language is different from learning other school subjects.
26. Learning a foreign language is mostly a matter of translating from English.
27. If I learn to speak this language very well, it will help me get a good job.
28. It is easier to read and write this language than to speak and understand it.
29. People who are good at math and science are not good at learning foreign languages.
30. Americans think that it is important to speak a foreign language.
31. I would like to learn this language so that I can get to know its speakers better.
32. People who speak more than one language well are very intelligent.
33. Americans are good at learning languages.
34. Everyone can learn to speak a foreign language.

これは，言語学習全般に対して，学習者のbeliefsを調査したものであり，本研究が対象とするものとは多少違うが，質問紙作成において非常に参考となる。

教師を対象にしたbeliefsの質問紙としてはJohnson（1992，cited in リチャーズ＆ロックハート，2000）のものがある（表３）。

これはESL指導を対象としたものであり，我が国の英語教育の現状には合わないかもしれないが，英語教師のbeliefsを調査する質問紙として非常に参考になる。

表３　教師の信条リスト―ESL指導へのアプローチ（Johnson，1992；cited in リチャーズ＆ロックハート，2000）

次の15の文章を読みなさい。そして，第２言語としての英語はどう身に付くか，第２言語としての英語をどのように教えるべきかについてのあなたの信条を反映していると思われるものを５個選びなさい。

1．言語は一つの文法体系であり，学習者はそれを意識的に学習し，コントロールするものと考えることができる。
2．ESLの生徒が，自分の発言の意味を理解しているのなら，その言語を実際に身につけていることになる。
3．ESLの生徒が話しながら間違いをする場合，その間違いを訂正し，あとで短時間の授業をして，なぜそのような間違いをしたかを説明することは役に立つことである。
4．母語話者が使う言葉を聞き，練習し，記憶すれば，ESLの生徒はその言語を実際に身につけることができる。
5．一般的に，ESLの生徒が英語を流暢に話せるようになるには，英語の文法の規則を理解する必要がある。
6．ESLの生徒が，話しながら間違いをする場合，そのような難点を生む言語パタンについての口頭練習を十分行うことは役に立つ。
7．言語は意味をともなったコミュニケ―ションと考えられ，学校での意識的な勉強ではなく，社会で無意識のうちに身に付けるものである。
8．もしESLの生徒が英語の基本的な文法規則をある程度理解すれば，ふつう，自分で多くの文を創り出すことができる。
9．ふつうESLの生徒にとって，どう言うかより何を言うかに焦点を当てることが大切である。
10. もしESLの生徒が母語話者の言語パタンを練習すれば，その練習した言語パタンに則って新しい文を作り出すことができる。
11. 英語の授業においては，文法構造をはっきりと繰り返し正確に示すことが重要である。
12. 言語は，母語話者の言語パタンについて，たくさんのドリルや練習を通して習得する行動の体系であると言える。
13. ESLの生徒が話しながら間違いをする場合，何を話そうとしているかが分かるならば，その間違いを無視する方がよい。
14. ESLの生徒は，ふつう，読むことや書くことを始める前に，聞くことや話すことに関わる基礎的な技能を習得する必要がある。
15. ESLの生徒に英語の話し方を教える必要は実際にはない。なぜなら自然と自分から話し始めるからである。

日本の英語教師のbeliefsを調査した質問紙としては，酒井ほか（2006）のものが挙げられる（表４）。

表４　英語学習・指導の信念に関する質問紙（酒井ほか，2006）

1	生徒同士で，外国語による自由な会話を行うと，誤りのある英語を使うので，互いの誤りを身につけてしまう。
2	英語を学ぶには，英語が話されている国で学んだほうがよい。
3	知能指数の高い生徒の方が，外国語の習得に成功する。
4	言語は主として模倣（つまり真似をして覚えること）によって学習される。
5	英語を学ぶ日本人学習者は，日本語の影響を受けた間違いをおかす。
6	外国語学習者は母語学習者（つまり，母語を学ぶ子ども）と同じ誤りをおかす。
7	ある文法規則よりも前に別の文法規則を習得する，というような習得の順序がある。
8	英文を読むとき日本語に訳せて初めて理解したと言える。
9	作文は日本語で書いてから英語に訳させるべきである。
10	大人も子どもも同じ習得過程をたどって外国語を習得する。
11	すべての生徒が同じ習得過程をたどって英語の文法を習得する。
12	すべての単語が聞き取れないとその話者の言いたいことは分からない。
13	円滑なコミュニケーションには文法規則の知識があれば十分である。
14	親はふつう子どもの文法的な間違いを訂正する。
15	意味のわからない単語は文脈（つまり，前後関係）から推測させたほうが辞書をひくよりも記憶に残りやすい。
16	一定の時期を過ぎると外国語を習得しにくくなる年齢がある。
17	教師は複雑な文法規則の前に簡単な文法規則を教えるべきである。
18	すべての人間に生得的な言語習得能力がある。（生まれながらにして持っている能力のこと。）
19	生徒の間違いはすべて訂正すべきである。
20	はっきり規則を説明した方が，文法の習得が促進される。
21	学習者は，自分で文法を創造する。（その結果，ある文法規則は，教えられていないのに，身につけていることがある。）
22	外国語学習の開始年齢が低ければ低いほど，それだけ成功の度合いも高い。
23	英文を読む時は文章の構造（例，パラグラフ構造など）を考えて読ませるべきである。
24	英語を読む時，音読したほうが理解が深まる。
25	外国語学習の過程は母語習得の過程と同じである。
26	英文を読む時は，読む前に内容を予測したほうが理解が深まる。
27	英語の授業はすべて英語で行なわれるべきである。
28	英語を聞く時は文字を見せるべきでない。

これは，島田（1996，2001，cited in 酒井ほか，2006）の質問紙を参考に，「言語に関する信念」「言語指導に関する信念（読むことに指導，書くことの指導，聞くことの指導，文法の指導，語彙の指導，使用言語）」，「言語学習に関する信念（習得のメカニズム，習得過程，学習環境，年齢，適性）」に関して質問する28の項目を作成したものだが，日本の英語教師を対象にした質問紙として，非常に参考となる。本研究においては，これらを参考にして，質問紙を作成することとする。

（２）質問紙の作成

先行研究で用いられた質問紙を参考に，本研究で用いる質問紙を作成した。質問項目の作成にあたっては，主にHorwitz（1988），酒井ほか（2006）の質問項目を用い，重複項目を削除し，用語や表現を本校の実態に合わせて多少変更するなどして，52の項目を作成した（表５）。

表５　教育実習生の英語学習・指導に関するbeliefs調査のための質問項目

1．	英語を流暢に話せるようになるには，文法の規則を理解する必要がある。
2．	生徒が英語の基本的な文法規則をある程度理解すれば，自分で多くの文を創り出すことができる。
3．	生徒にとって，どう言うかより何を言うかに焦点を当てることが大切である。
4．	英語の授業においては，文法構造をはっきりと繰り返し正確に示すことが重要である。
5．	英語は，言語パタンについてたくさんのドリルや練習をすれば習得できる。
6．	何を話そうとしているかが分かるならば，間違いをおかしても無視する方がよい。
7．	読むことや書くことを始める前に，聞くことや話すことに関わる基礎的な技能を習得する必要がある。
8．	生徒同士で，外国語による自由な会話を行なうと，誤りのある英語を使うので，互いの誤りを身につけてしまう。
9．	英語を学ぶには，英語が話されている国で学んだほうがよい。
10．	知能指数の高い生徒の方が，外国語の習得に成功する。
11．	言語は主として模倣（つまり真似をして覚えること）によって学習される。

12. 英語を学ぶ日本人学習者は，日本語の影響を受けた間違いをおかす。
13. 外国語学習者は母語学習者（つまり，母語を学ぶ子ども）と同じ誤りをおかす。
14. ある文法規則よりも前に別の文法規則を習得する，というような習得の順序がある。
15. 英文を読むとき，日本語に訳せて初めて理解したと言える。
16. 作文は日本語で書いてから英語に訳させるべきである。
17. 大人も子どもも同じ習得過程をたどって外国語を習得する。
18. すべての生徒が同じ習得過程をたどって英語の文法を習得する。
19. すべての単語が聞き取れないと，その話者の言いたいことは分からない。
20. 円滑なコミュニケーションには文法規則の知識があれば十分である。
21. 親はふつう子どもの文法的な間違いを訂正する。
22. 意味のわからない単語は文脈（つまり，前後関係）から推測させたほうが辞書をひくよりも記憶に残りやすい。
23. 一定の時期を過ぎると外国語を習得しにくくなる年齢がある。
24. 教師は複雑な文法規則の前に簡単な文法規則を教えるべきである。
25. すべての人間に生得的な言語習得能力がある。（生まれながらにして持っている能力のこと。）
26. 生徒の間違いはすべて訂正すべきである。
27. はっきり規則を説明した方が，文法の習得が促進される。
28. 学習者は，自分で文法を創造する。（その結果，ある文法規則は，教えられていないのに，身につけていることがある。）
29. 外国語学習の開始年齢が低ければ低いほど，それだけ成功の度合いも高い。
30. 英文を読む時は文章の構造（例，パラグラフ構造など）を考えて読ませるべきである。
31. 英語を読む時，音読したほうが理解が深まる。
32. 外国語学習の過程は母語習得の過程と同じである。
33. 英文を読む時は，読む前に内容を予測したほうが理解が深まる。
34. 英語の授業はすべて英語で行なわれるべきである。
35. 英語を聞く時は，文字を見せるべきでない。
36. 外国語を身に付けるのは，大人より子どもの方が簡単である。
37. 外国語を身に付けるのに特別な才能を持っている人がいる。
38. 言語の中には，学習するのが簡単なものと難しいものとがある。
39. 日本人は外国語を身に付けるのが下手だ。
40. すばらしい発音で英語を話すことは大切である。
41. 英語を話すためには，英語を使う人々の文化を知る必要がある。
42. 正しく言えるようにならないうちに，何か英語で言うべきではない。
43. 一つの外国語を話せるようになっている人は，もう一つの外国語を身に付けるのは簡単である。
44. 数学または科学が得意な人は，外国語を学ぶのは得意ではない。
45. 男性より女性の方が外国語を学ぶのがうまい。
46. 入門期の生徒が英語で間違いをしても許されるなら，その後正しく話せるようになるのは難しい。
47. 外国語学習で一番大切なことは，文法を身に付けることである。
48. 外国語を学ぶことは，他の教科の勉強とは違う。
49. ２か国語以上の言語を話す人は頭が良い。
50. 誰でも外国語が話せるようになる。
51. 英語を聞いたり話したりするより，読んだり書いたりする方が簡単である。
52. 英語は
    a）大変難しい言語である　b）難しい言語である
    c）中ぐらい難しい言語である　d）易しい言語である
    e）大変易しい言語である

回答の方法は，Horwitz（1988），酒井ほか（2006）に従い，５件法（１：まったくそう思わない，２：あまりそう思わない，３：どちらともいえない，４：ややそう思う，５：非常にそう思う）とした。

５．ま と め

本研究は，英語科教育実習生が持つ英語学習・英語教育に対するbeliefs（信条・信念）を明らかにし，指導教員のbeliefsとの比較等を通してその問題点を分析し，今後の英語科教育実習生指導の改善・充実に向けた示唆を得ることを目的として行った。

３年計画の初年度の今年は，まず教育実習生と指導教員の間のbeliefsの差，言語学習・言語教育のbeliefsに関して行われた先行研究を概観した。教育実践活動や教育実習そのものに対する意識において，教育実習生と指導教員の間にはいくつかの差異があることがわかった。一方，教育実習生の英語学習・英語教育に関するbeliefsや，指導教員との差を検討した研究はまだ行われておらず，本研究の今後の教育実習指導における必要性も確認された。その後，先行研究で用いられた質問紙をもとに，本研究の質問紙で用いる52の項目を作成し，５件法（１：まったくそう思わない，２：あまりそう思わない，３：どちらともいえない，４：ややそう思う，５：非常にそう思う）で回答する質問

紙を作成した。

来年度は，今年度作成した質問紙を教育実習生と指導教員それぞれに実施し，統計的な手法を用いながら，教育実習生のbeliefsの特徴や両者の間にあるbeliefsの差を明らかにしていく。また，それによって得られた知見を元に，今後の教育実習指導の改善・充実への示唆を与えることができればと思う。

引用文献

磯崎哲夫，磯崎尚子，木原成一郎．(2002)．「教育実習に対する国立大学附属指導教官と教育実習生の意識調査―教育実習におけるメンタリングの可能性を探る―」『日本教科教育学会誌』第25巻　第２号，21－30.

酒井英樹，塩川春彦，浦野　研．(2006)．「英語学習についての信念―現職教員研修のための基礎研究」第12回日英・英語教育学会研究大会発表資料.

中央教育審議会．(2006)．『今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）』.

藤沢伸介．(1985)．「教育実習生の教授行動の問題点にあらわれた初心者としての教師の特徴」『跡見学園女子大学紀要』第28号，93－109.

三橋功一，山崎正吉，梅澤　実．(2002)．「教育実習生と指導教官が焦点をあてる教育実践の活動を構成する因子の比較」『日本教育工学会誌』第26号(suppl.)，73－78.

リチャーズ，C. & ロックハート，C.（新里眞男訳）．(2000)．『英語教育のアクションリサーチ』研究社.

Horwitz, E.K. (1988). The beliefs about language learning of beginning university foreign language students. The Modern Language Journal, 2, pp. 283-294.

Richards, J.C., & Lockhart, C. (1994). *Reflecting teaching in second language classrooms*. Cambridge: Cambridge University Press.

資料１　英語学習・英語教育のbeliefsに関する質問紙

英語学習・英語教育に関するアンケート

実習生・指導教員 ― いずれかに○

以下の項目について，「5.非常にそう思う」，「4.ややそう思う」，「3.どちらともいえない」，「2.あまりそう思わない」，「1.まったくそう思わない」のいずれかで答えてください。

	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1. 英語を流暢にはなせるようになるには，文法の規則を理解する必要がある。	5	4	3	2	1
2. 生徒が英語の基本的な文法規則をある程度理解すれば，自分で多くの文を創り出すことができる。	5	4	3	2	1
3. 生徒にとって，どう書くかより何を書くかに焦点を当てることが大切である。	5	4	3	2	1
4. 英語の授業においては，文法構造をはっきりと繰り返し反復に示すことが重要である。	5	4	3	2	1
5. 英語は，言語パターンについてたくさんのドリルや練習をすれば習得できる。	5	4	3	2	1
6. 何を話そうとしているかが分かるならば，間違いをおかしても無視する方がよい。	5	4	3	2	1
7. 読むことや書くことを始める前に，聞くことや話すことに関わる基礎的な技能を習得する必要がある。	5	4	3	2	1
8. 生徒同士で，外国語による自由な会話を行なうと，誤りのある英語を使うので，互いの誤りを身につけてしまう。	5	4	3	2	1
9. 英語を学ぶには，英語が話されている国で学んだほうがよい。	5	4	3	2	1
10. 知能指数の高い生徒の方が，外国語の習得に成功する。	5	4	3	2	1
11. 言語は主として模倣（つまり真似をして覚えること）によって学習される。	5	4	3	2	1
12. 英語を学ぶ日本人学習者は，日本語の影響を受けた間違いをおかす。	5	4	3	2	1
13. 外国語学習者は母語学習者（つまり，母語を学ぶ子ども）と同じ誤りをおかす。	5	4	3	2	1
14. あるＸ法規則よりも前に別の文法規則を習得する，というような習得の順序がある。	5	4	3	2	1
15. 英文を読むとき日本語に訳せて初めて理解したと言える。	5	4	3	2	1
16. 作文は日本語で書いてから英語に訳させるべきである。	5	4	3	2	1
17. 大人も子どもも同じ習得過程をたどって外国語を習得する。	5	4	3	2	1
18. すべての生徒が同じ習得過程をたどって英語の文法を習得する。	5	4	3	2	1
19. すべての単語が聞き取れないとその話者の言いたいことは分からない。	5	4	3	2	1
20. 円滑なコミュニケーションには文法規則の知識があれば十分である。	5	4	3	2	1
21. 親はふつう子どもの文法的な間違いを訂正する。	5	4	3	2	1
22. 意味のわからない単語は文脈（つまり，前後関係）から推測させたほうが辞書をひくよりも記憶に残りやすい。	5	4	3	2	1
23. 一定の時期を過ぎると外国語を習得しにくくなる年齢がある。	5	4	3	2	1
24. 教師は複雑な文法規則の前に簡単な文法規則を教えるべきである。	5	4	3	2	1
25. すべての人間に生得的な言語習得能力がある。（生まれながらにして持っている能力のこと。）	5	4	3	2	1
26. 生徒の間違いはすべて訂正すべきである。	5	4	3	2	1
27. はっきり規則を説明した方が，文法の習得が促進される。	5	4	3	2	1
28.学習者は，自分で文法を創造する。（その結果，ある文法規則は，教えられていないのに，身につけていることがある。）	5	4	3	2	1
29. 外国語学習の開始年齢が低ければ低いほど，それだけ成功の度合いも高い。	5	4	3	2	1
30. 英文を読む時は文章の構造（例，パラグラフ構造など）を考えて読ませるべきである。	5	4	3	2	1
31. 英語を読む時，音読したほうが理解が深まる。	5	4	3	2	1
32. 外国語学習の過程は母語習得の過程と同じである。	5	4	3	2	1
33. 英文を読む時は読む前に内容を予測したほうが理解が深まる。	5	4	3	2	1
34. 英語の授業はすべて英語で行なわれるべきである。	5	4	3	2	1
35. 英語を聞く時は文字を見せるべきでない。	5	4	3	2	1
36. 外国語を身に付けるのは，大人より子どもの方が簡単である。	5	4	3	2	1
37. 外国語を身に付けるのに特別な才能を持っている人がいる。	5	4	3	2	1
38. 言語の中には，学習するのが度単なものと難しいものとがある。	5	4	3	2	1
39. 日本人は外国語を身に付けるのが下手だ。	5	4	3	2	1
40. すばらしい発音で英語を話すことは大切である。	5	4	3	2	1
41. 英語を話すためには，英語を使う人々の文化を知る必要がある。	5	4	3	2	1
42. 正しく言えるようにならないうちに，何か英語で言うべきではない。	5	4	3	2	1
43. 一つの外国語を話せるようになっている人は，もう一つの外国語を身に付けるのは簡単である。	5	4	3	2	1
44. 数学または科学が得意な人は，外国語を学ぶのは得意ではない。	5	4	3	2	1
45. 男性より女性の方が外国語を学ぶのがうまい。	5	4	3	2	1
46. 入門期の生徒が英語で間違いをしても許されるなら，そのまま正しく話せるようになるのは難しい。	5	4	3	2	1
47. 外国語学習で一番大切なことは，文法を身に付けることである。	5	4	3	2	1
48. 外国語を学ぶことは，他の教科の勉強とは違う。	5	4	3	2	1
49. 2か国語以上の言語を話す人は頭が良い。	5	4	3	2	1
50. 誰でも外国語が話せるようになる。	5	4	3	2	1
51. 英語を聞いたり話したりするより，読んだり書いたりする方が簡単である。	5	4	3	2	1
52. 英語は 5) 大変難しい言語である，4) 難しい言語である，3) 中ぐらい難しい言語である，2) 易しい言語である，1) 大変易しい言語である	5	4	3	2	1